

士別市立病院の
あり方検討市民委員会
答申（案）

令和 7 年 10 月 1 日

士別市立病院のあり方検討市民委員会

令和 7（2025）年 10 月 1 日

士別市長 渡辺 英次 様

士別市立病院のあり方検討市民委員会
委員長 鈴木 勉

令和 7（2025）年 4 月 25 日付士病経総 53 号「士別市立病院のあり方に関する諮問について」に対し、市民目線による病院の将来に向けたあり方と目指すべき方向性を、以下のとおり答申します。

(1) 士別市立病院の将来のあり方について

士別市立病院は、士別市内で唯一の病院として、入院機能、外来機能、救急受入機能など、多様な役割を担っており、今後も公立病院として、医療提供体制の確保に向け、取組を進めていくことが求められます。

また、住民アンケート調査においても、今後士別市において特に必要な医療機能として、「市内に入院可能な医療機関があること」や「救急医療提供体制が充実すること」、「外来機能（かかりつけ医）が充実すること」の回答が多くなっています。

こうした状況をふまえ、士別市立病院は、今後も士別市の運営する公立病院として継続していくべきと考えます。

(2) 士別市立病院の目指すべき方向性について

■ **基本的な方向性**

士別市立病院は、今後も士別市の運営する公立病院として、士別市を中心とする地域の医療提供体制の中で重要な役割を果たし、住民にとって安心できる病院、頼られる病院であっていただけるよう、要望します。

名寄市立総合病院など、他施設との機能分化・連携を行うことで、地域全体の診療機能を充実させることは重要です。その一方で、現在士別市立病院で担っている診療機能のうち、継続可能な機能については、今後も維持していただけるよう、要望します。

また、「患者さん中心の医療」という理念、「患者さんの意思を尊重し、尊厳を守る医療の提供」という基本方針の実現に向けては、病院職員が一丸となって、意識を共有していくことが重要と考えます。士別市立病院のホスピタリティがさらに向上し、住民から選ばれる病院となっていただけるよう、要望します。

■ **入院機能について**

入院機能については、高齢化が進むことで、移動手段が限られる住民が増加する可能

性をふまえると、士別市内に入院可能な医療機関があることが重要です。そのため、現在と同様、士別市を中心とした入院患者の受入を今後も継続していくべきと考えます。

入院受入の対応範囲については、名寄市立総合病院など、他施設との機能分化・連携を行いつつ、士別市立病院での対応範囲の拡大が実現するよう、要望します。

■ 外来機能について

外来機能については、住民が困ったときに頼ることができる施設であるために、多くの診療科目を標榜していることが重要です。そのため、現状の診療科目は今後も継続すべきと考えます。

また、若い世代が、士別市で出産・子育てを行うことを後押しすることが、人口減少への対策として効果的であると考えます。そのため、現在の婦人科から産婦人科への機能強化、小児科の診療体制の充実に取り組むべきと考えます。

医師不足や医師偏在の対策として、他施設でも検討されている総合診療科の設置については、士別市立病院の課題の解決につながる施策だと考えます。ただし、旭川市や名寄市など、周辺市町村の医療機関や、大学医学部との連携状況をふまえ、設置可否の検討を継続すべきと考えます。

外来の一部門として実施している透析医療については、基本的に継続的な治療が必要であること、一定程度採算性が確保できていることなどの状況をふまえ、今後も継続すべきと考えます。

■ 救急受入機能について

救急受入機能については、士別市立病院が士別消防事務組合の担当範囲で唯一の救急告示医療機関であり、地域で発生した二次救急・一次救急の大部分を担っています。そのため、現在と同様、士別市を中心とした二次救急・一次救急の受入を継続すべきと考えます。

また、時間外の救急搬送の受入体制の充実や、対応可能な症例の充実（外科系の症例など）、名寄市立総合病院など他施設の専門医との連携など、機能充実に向けた取組を実施すべきと考えます。

■ 政策的医療（感染症対応機能）について

士別市立病院は公立病院として、政策的医療の実施において大きな役割を果たしています。その中でも重要となるのが、感染症への対応です。

新型コロナウイルス感染症への対応において、士別市立病院をはじめとする公立病院は、感染者の受入病床の確保や発熱外来の実施など、中心的な役割を果たしました。そのため、今後も新興感染症に対応可能な体制を整備しておくべきと考えます。

関連して、インフルエンザなど毎年発生する感染症や、小児感染症（麻疹、手足口病

など)についても、対応可能な体制を整備しておくべきと考えます。

■ 病院経営、再整備事業について

人口減少に伴う患者数の減少、物価高騰などの影響を受け、士別市立病院の財政は厳しい状況にあります。また、医療行為に対する診療報酬は、近年の物価高騰に対して引き上げが行われておらず、全国的に病院経営は苦しい状況にあります。

その中でも医療提供体制を継続していくためには、効率的な経営が必要です。基本方針にも掲げている通り、「効果的で健全な病院経営」に努めていただけるよう、要望します。

また、士別市立病院の建物は昭和 62 (1987) 年に竣工後、すでに築後 37 年が経過しており、建物・設備の老朽化が進んでいます。再整備の方針としては、移転新築による建替え、現敷地内での建替え、現建物の大規模改修などが想定されますが、いずれの場合においても投資が避けられません。

再整備方針の検討においては、老朽化などの課題を解決し患者・職員の双方にとって望ましい病院になるとともに、健全経営を見据えた、適切な規模の設備投資を実施していただけるよう、要望します。

目次

1	病院の現状.....	1
(1)	病院の基本情報	
(2)	病院の沿革	
(3)	病院の診療状況	
2	病院を取り巻く環境の現状	9
(1)	地域の医療機関整備状況	
(2)	地域の将来人口	
(3)	地域の将来医療需要	
3	住民アンケートの意見.....	16
4	病院の課題.....	17
5	士別市立病院のあり方検討市民委員会設置要綱	18
6	士別市立病院のあり方検討市民委員会の開催経過.....	20
7	委員名簿	21

1. 病院の現状

(1) 病院の基本情報

士別市立病院は、士別市の運営する公立病院です。現在、病床数 129 床、標榜診療科目 14 科目で運営しています。また、二次救急告示病院に指定されています。

図表1 士別市立病院の基本情報

区分	情報
施設名	士別市立病院
住所	北海道士別市東 11 条 5 丁目 3029 番地 1
経営形態	地方公営企業法全部適用
入院料別 病床数	【合計 129 床】 急性期一般入院料 4（一般病床）：50 床 療養病棟入院料 1（療養病床）：40 床 地域包括ケア入院医療管理料 1（療養病床）：39 床
診療科目	14 科目（内科、循環器内科、消化器内科、外科、整形外科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、精神神経科、婦人科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科）
機関指定	救急告示病院（二次救急輪番制）

図表2 士別市立病院の理念、基本方針

理念

患者さん中心の医療を行い、地域から信頼される病院づくりを進めます。

基本方針

- 患者さんの意思を尊重し、尊厳を守る医療の提供に努めます。
- 地域の連携を深め、地域完結型の「治し支える医療」の推進に努めます。
- 医療人として自ら研鑽に励み、地域の医療水準の向上に努めます。
- 公共性を確保し、効果的で健全な病院経営に努めます。

現在、内科、循環器内科、消化器内科、外科、整形外科、婦人科、麻酔科で、合計 14 名の常勤医師が勤務しています。小児科、眼科などその他の診療科については、非常勤医師や他の医療機関からの出張医により対応しています。

図表3 各診療科目の常勤医師配置状況

内科（3名）	循環器内科（1名）	消化器内科（5名）	外科（1名）	整形外科（2名）
婦人科（1名）	麻酔科（1名）	人工透析	小児科	眼科
皮膚科	泌尿器科	精神神経科	放射線科	リハビリテーション科

:常勤
 : 出張医など

入院機能としては、急性期、回復期、慢性期の 3 つの病床機能を担っており、幅広い機能に対応しています。なお、高度急性期機能については、名寄市立総合病院が担っています。

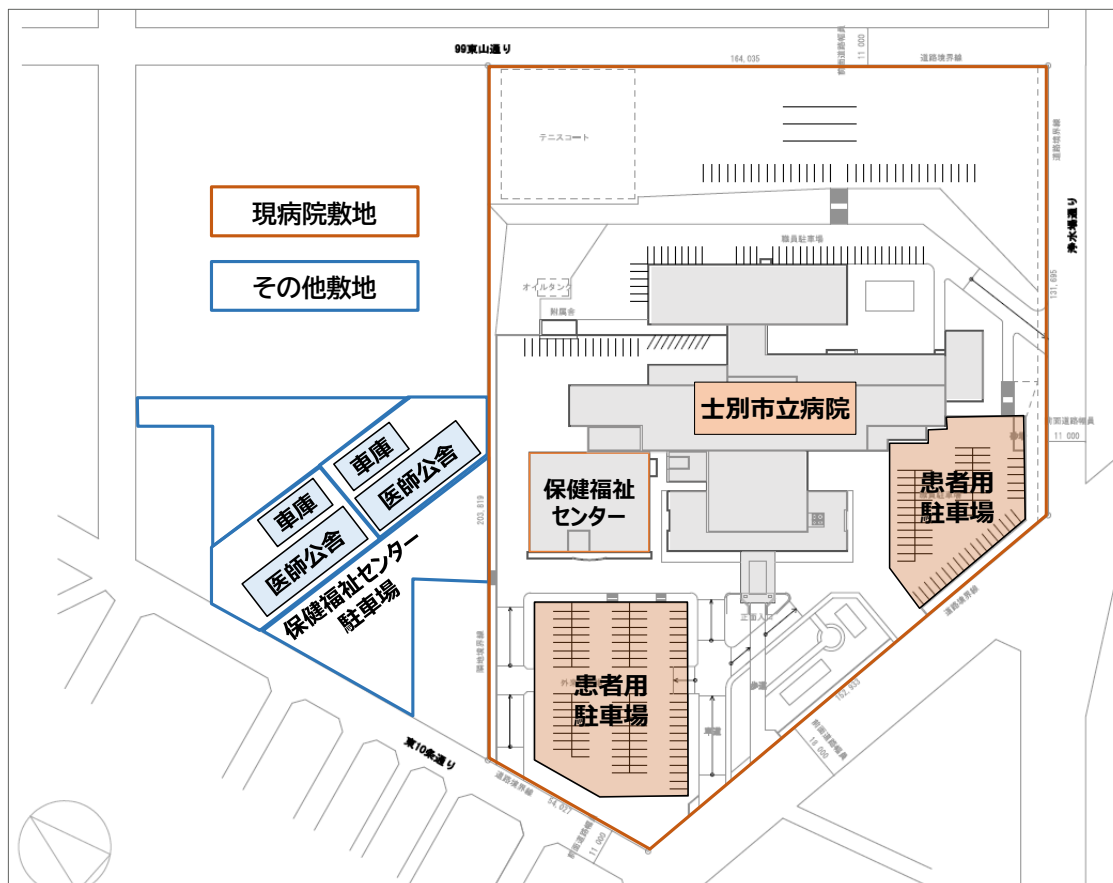
図表4 病床機能の考え方と、士別市立病院が担っている機能

病床機能	各病床機能で主に対応する患者	当院が現在担っている機能
高度急性期	病態が特に不安定であり、 急性期よりも密度の高い医療 の提供が必要な患者	（なし）
急性期	病気や怪我になり始め、病態が不安定であり、 密度の高い医療 の提供が必要な患者	50床
回復期	容体が急性期を脱し、リハビリテーションを中心として、 身体機能の回復 を図ることが必要な患者	39床
慢性期	容体は安定しているが、病気が緩やかに進行しており、 長期療養 を必要とする患者	40床

幅広い機能に対応

現在の病院建物は昭和 62 (1987) 年に竣工し、築後 37 年が経過しています。敷地内には病院建物のほか、保健福祉センターが併設しています。また、隣地には医師公舎や車庫など、関連施設が所在しています。

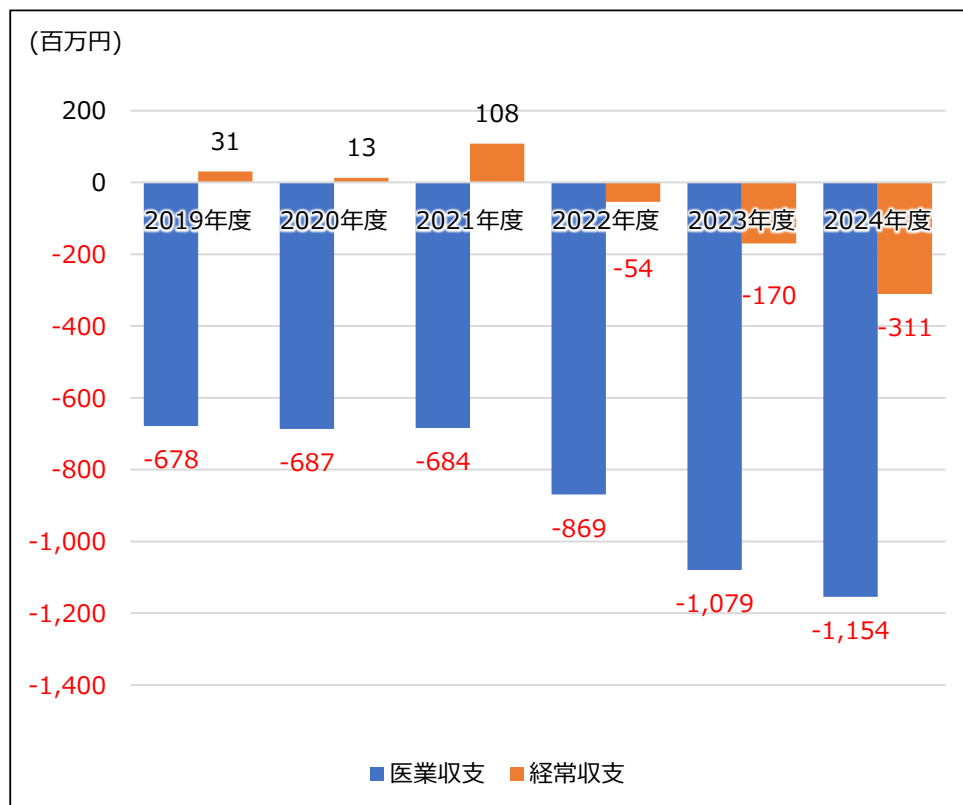
図表5 現病院の敷地・建物配置状況



医業収支、経常収支は、ともに近年赤字が続いています。これは、患者数の減少、救急医療など採算性の低い事業の実施、新型コロナウイルス感染症への対応、国に求められる人件費ベースアップへの対応などが主な要因です。

収支状況の改善に向けて、令和 5（2023）年度には「士別市立病院経営強化プラン」を策定しており、プランの内容に則った取組を実施中です。

図表6 医業収支、経常収支の推移状況



(2) 病院の沿革

士別市立病院は現在の病院敷地に移転後、病床数の削減が進んでいます。昭和 62 (1987) 年の新築時には、病床数 307 床（一般病床 240 床、精神病床 60 床）でしたが、現在では病床数 129 床（一般病床 50 床、療養病床 79 床）まで削減しています。

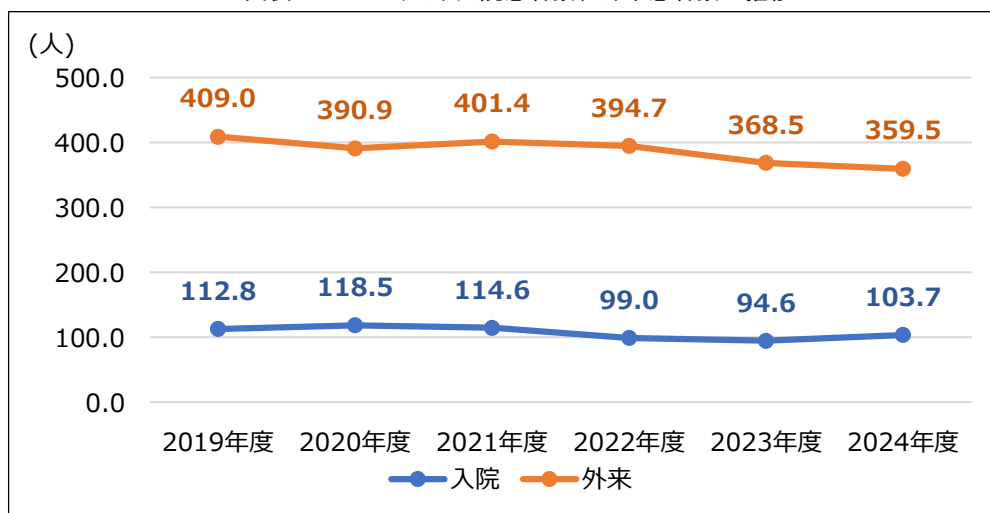
図表7 現在の病院敷地移転以降の病床数の推移

年	出来事・病床数
昭和 62 (1987) 年	現在地に移転 病床数 307 床（一般病床 240 床、精神病床 67 床）
平成 15 (2003) 年	病床数 270 床（一般病床 240 床、療養病床 30 床（新規））
平成 20 (2008) 年	病床数 240 床（一般病床 210 床、療養病床 30 床）
平成 23 (2011) 年	病床数 199 床（一般病床 179 床、療養病床 20 床）
平成 26 (2014) 年	病床数 199 床（一般病床 169 床、療養病床 30 床）
平成 27 (2015) 年	病床数 179 床（一般病床 91 床、療養病床 88 床）
平成 29 (2017) 年	病床数 148 床（一般病床 60 床、療養病床 88 床）
令和 4 (2022) 年	病床数 133 床（一般病床 55 床、療養病床 88 床）
令和 6 (2024) 年	病床数 129 床（一般病床 50 床、療養病床 79 床）

(3) 病院の診療状況

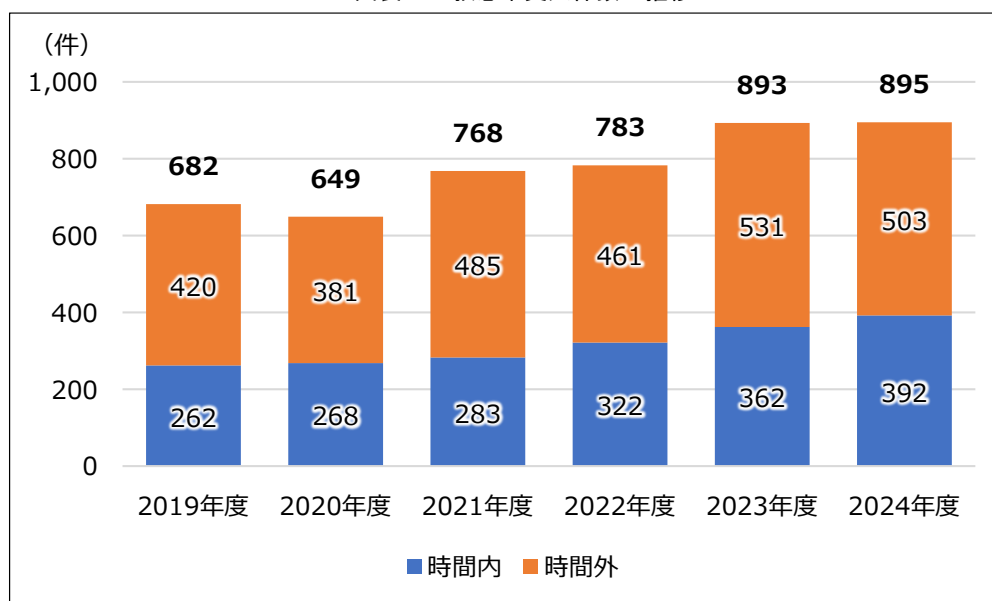
入院患者数、外来患者数は、ともに近年減少傾向にあります。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による受診控えや院内クラスターの発生に伴う病棟の閉鎖、地域人口の減少、医師の勤務状況の変動などが影響しています。

図表8 1日当たり入院患者数、外来患者数の推移



救急車の受入件数は、近年増加傾向にあります。士別市立病院は、士別消防事務組合の担当する 1 市 3 町で唯一の救急告示医療機関として、中等症・軽症の患者を対象とする二次救急・一次救急を中心に、地域の救急医療の担い手としての役割を果たしています。重篤な救急患者を対象とする三次救急については、名寄市立総合病院が対応しています。

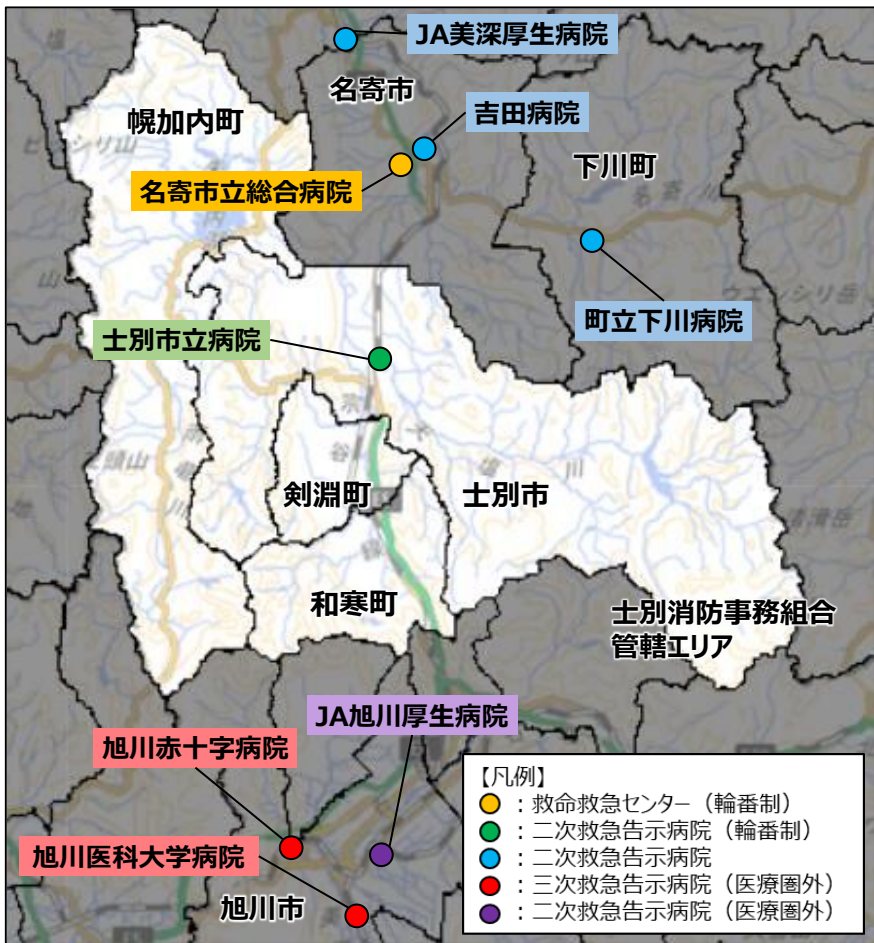
図表9 救急車受入件数の推移



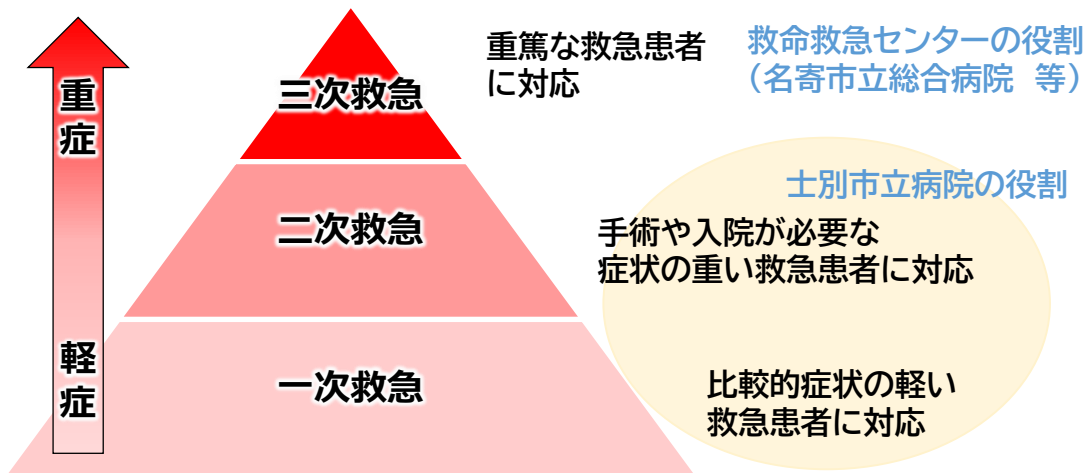
※時間内：平日の 9 時～17 時に対応した件数

※時間外：平日の 17 時～翌日 9 時、休日・祝日に対応した件数

図表10 土別消防事務組合の管轄地域と、救急告示病院の分布状況



図表11 救急機能区分の考え方



2. 病院を取り巻く環境の現状

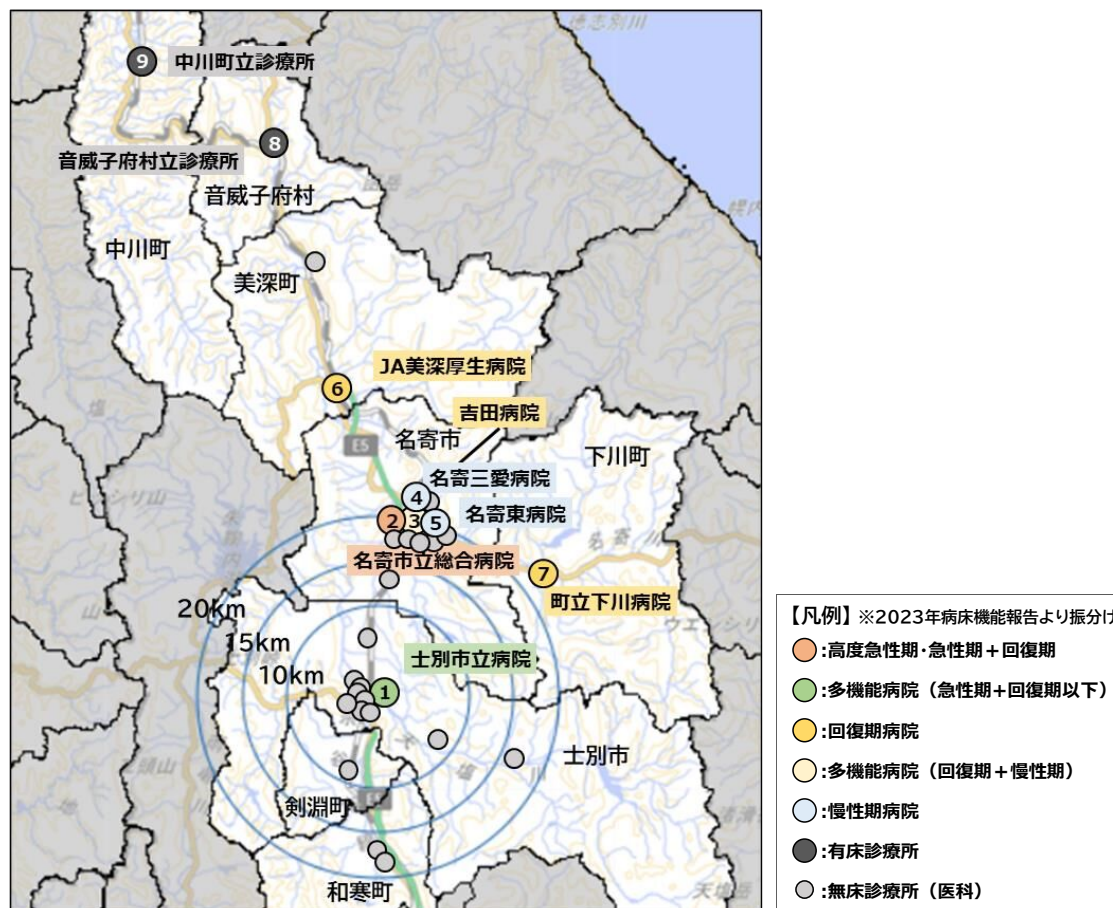
(1) 地域の医療機関整備状況

北海道医療計画は、士別市を含む 8 市町村を、上川北部二次医療圏として定めています。

上川北部二次医療圏には、士別市立病院を含め、病院が 7 施設、有床診療所が 2 施設所在しています。なお、士別市内には病院は士別市立病院の 1 施設のみとなっており、半径 15 キロメートル圏内には、他の病院はありません。

令和 2 (2020) 年には、地域の医療提供体制の継続を目的として、士別市立病院、名寄市立総合病院、名寄東病院の 3 施設の参加する地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」が設立され、3 施設の連携が強化されています。

図表12 上川北部二次医療圏の医療機関整備状況



上川北部二次医療圏の病院と有床診療所の、病床整備状況は図表 13 の通りです。

医療圏内で急性期機能を担っている病院は、士別市立病院と名寄市立総合病院の 2 施設となっています。

図表 13 上川北部二次医療圏の病床整備状況

市町村	No.	医療機関名称	診療科目数	病床数（医療法）※厚生局データ2025年8月1日時点						病床機能報告（一般・療養）※2023年データ						備考
				合計	一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	結核病床	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中	
士別市	1	士別市立病院	14	129床	50床	79床				133床		55床	53床		25床	左記病床機能内訳は2023年報告時点の数値
名寄市	2	名寄市立総合病院	21	359床	300床		55床	4床		300床	11床	241床	48床			
	3	医療法人臨生会 吉田病院	9	124床	64床	60床				96床			36床	60床		
	4	医療法人社団三愛会 名寄三愛病院	5	90床	44床	46床				90床				90床		
	5	名寄東病院	3	105床		105床				105床				105床		
美深町	6	J A 北海道厚生連 美深厚生病院	3	64床	12床	52床				64床			52床		12床	
下川町	7	町立下川病院	4	41床	41床					41床			41床			
音威子府村	8	音威子府村立診療所		11床	11床					19床		19床				左記+8床は介護療養病床
中川町	9	中川町立診療所		10床	10床					10床				10床		
医療圏の合計病床数(A)										858床	11床	315床	230床	265床	37床	
地域医療構想において定める、2025年における必要病床数(B)										792床	63床	229床	251床	249床		
現状との差分(A-B)										66床	-52床	86床	-21床	16床	37床	

【出典】北海道厚生局、病床機能報告（令和 5 年度）

医療法で定められる「政策的医療」のうち、5 疾病 6 事業および在宅医療の実施状況は図表 14 の通りです。

士別市立病院は公立病院として、救急医療、感染症医療のほか、多くの事業に対応しています。

図表 14 上川北部二次医療圏の 5 疾病 6 事業および在宅医療の実施状況

市町村	No.	医療機関名称	5疾病					6事業						在宅医療
			がん	脳卒中	心筋梗塞	糖尿病	精神疾患	救急医療	災害医療	へき地医療	周産期医療	小児医療	感染症医療	
士別市	1	士別市立病院	化学療法	回復期		対応可 (合併症含)	精神科 医療提供	二次救急 輪番参加				小児科 標榜	病床確保 医療連携協定	
名寄市	2	名寄市立総合病院	診療連携 指定病院	急性期	急性期	対応可 (合併症含)	精神科 認知症C	救命救急	災害拠点 病院	へき地 拠点病院	周産期 母子	小児救急・ 入院	第二種	
	3	医療法人臨生会 吉田病院		回復期				二次救急					病床確保 医療連携協定	在宅医療 支援病院
	4	医療法人社団三愛会 名寄三愛病院		回復期		対応可								
	5	名寄東病院				対応可 (合併症含)								
美深町	6	J A 北海道厚生連 美深厚生病院		回復期				二次救急					病床確保 医療連携協定	
下川町	7	町立下川病院				対応可 (合併症含)		二次救急				小児科 標榜	病床確保 医療連携協定	
音威子府村	8	音威子府村立診療所				対応可 (合併症含)		二次救急						
中川町	9	中川町立診療所				対応可 (合併症含)		二次救急						

【出典】北海道医療計画 上川北部地域推進方針

上川北部二次医療圏の各医療機関の標榜する診療科目は、図表 15 の通りです。

産婦人科は名寄市立総合病院のみが、婦人科は士別市立病院のみが、それぞれ標榜しています。

図表15 上川北部二次医療圏 医療機関の標榜診療科目一覧表

1. 士別市立病院が標榜している診療科目

市町村	区分	施設名	内科	循環器内科	消化器内科	外科	整形外科	婦人科	小児科	眼科	皮膚科	泌尿器科	放射線科	精神神経科	リハビリテーション科	麻酔科
士別市	病院	士別市立病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	無床診療所	士別市立上士別医院	●			●			●		●					
	無床診療所	吉田耳鼻咽喉科分院 ※休止中														
	無床診療所	船津医院	●			●			●							
	無床診療所	士別市立あさひクリニック	●			●										
	無床診療所	しべつ耳鼻咽喉科あらかわクリニック														
	無床診療所	士別市立多寄医院	●			●			●		●					
	無床診療所	道北クリニック	●			●			●		●				●	
	無床診療所	しべつ整形外科クリニック					●									
	無床診療所	しべつ内科クリニック	●	●												
	無床診療所	医療法人社団光翔会しべつ眼科								●						
名寄市	病院	名寄市立総合病院	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●			●
	病院	医療法人臨生会 吉田病院	●												●	
	病院	医療法人社団三愛会 名寄三愛病院	●												●	
	病院	名寄東病院	●		●										●	
	無床診療所	片平外科脳神経外科				●	●				●	●			●	
	無床診療所	名寄中央整形外科	●				●								●	
	無床診療所	たに内科クリニック	●		●											
	無床診療所	なよろ眼科								●						
	無床診療所	名寄市風連国民健康保険診療所	●			●	●									
	無床診療所	あべクリニック														
	無床診療所	なよろ内科クリニック	●		●											
剣淵町	無床診療所	国民健康保険剣淵町立診療所	●						●				●			
和寒町	無床診療所	野々瀬内科小児科クリニック	●						●							
	無床診療所	国民健康保険和寒町立診療所	●			●			●						●	●
美深町	病院	J A北海道厚生連 美深厚生病院	●			●			●							
下川町	病院	町立下川病院	●			●			●				●			
音威子府村	有床診療所	音威子府村立診療所	●		●		●		●		●					
中川村	有床診療所	中川村立診療所	●			●			●							
		合計	22	3	6	13	7	1	13	4	7	3	4	1	8	3

【出典】北海道厚生局

2. 士別市立病院が標榜していない診療科目

市町村	区分	施設名	呼吸器内科	循環器科	消化器科	気管食道科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	糖尿病科	歯科	歯科矯正科	小児歯科	歯科口腔外科	肛門科	精神科	神経内科	心療内科	アレルギー科	リウマチ科	救急科	麻酔科（バインクリニック）
士別市	病院	士別市立病院																						
	無床診療所	士別市立上士別医院																						●
	無床診療所	吉田耳鼻咽喉科分院 ※休止中				●					●													
	無床診療所	船津医院																						
	無床診療所	士別市立あさひクリニック																						
	無床診療所	しべつ耳鼻咽喉科あらかわクリニック									●										●			
	無床診療所	士別市立多奇医院																			●			
	無床診療所	道北クリニック																						
	無床診療所	しべつ整形外科クリニック																						
	無床診療所	しべつ内科クリニック	●																		●			
	無床診療所	医療法人社団光翔会しべつ眼科																					●	
名寄市	病院	名寄市立総合病院	●				●	●	●	●	●	●						●	●	●			●	
	病院	医療法人臨生会 吉田病院					●				●		●	●	●	●								
	病院	医療法人社団三愛会 名寄三愛病院		●	●								●											
	病院	名寄東病院																						
	無床診療所	片平外科脳神経外科					●																	
	無床診療所	名寄中央整形外科																				●		
	無床診療所	たに内科クリニック																						
	無床診療所	なよろ眼科																						
	無床診療所	名寄市風連国民健康保険診療所																						
	無床診療所	あべクリニック																●		●				
	無床診療所	なよろ内科クリニック																				●		
剣淵町	無床診療所	国民健康保険剣淵町立診療所																						
和寒町	無床診療所	野々瀬内科小児科クリニック																						
	無床診療所	国民健康保険和寒町立診療所																						
美深町	病院	J A 北海道厚生連 美深厚生病院																						
下川町	病院	町立下川病院																						
音威子府村	有床診療所	音威子府村立診療所																				●		
中川村	有床診療所	中川村立診療所																						
合計			2	1	1	1	3	1	1	1	4	1	2	1	1	1	1	2	1	2	3	3	1	1

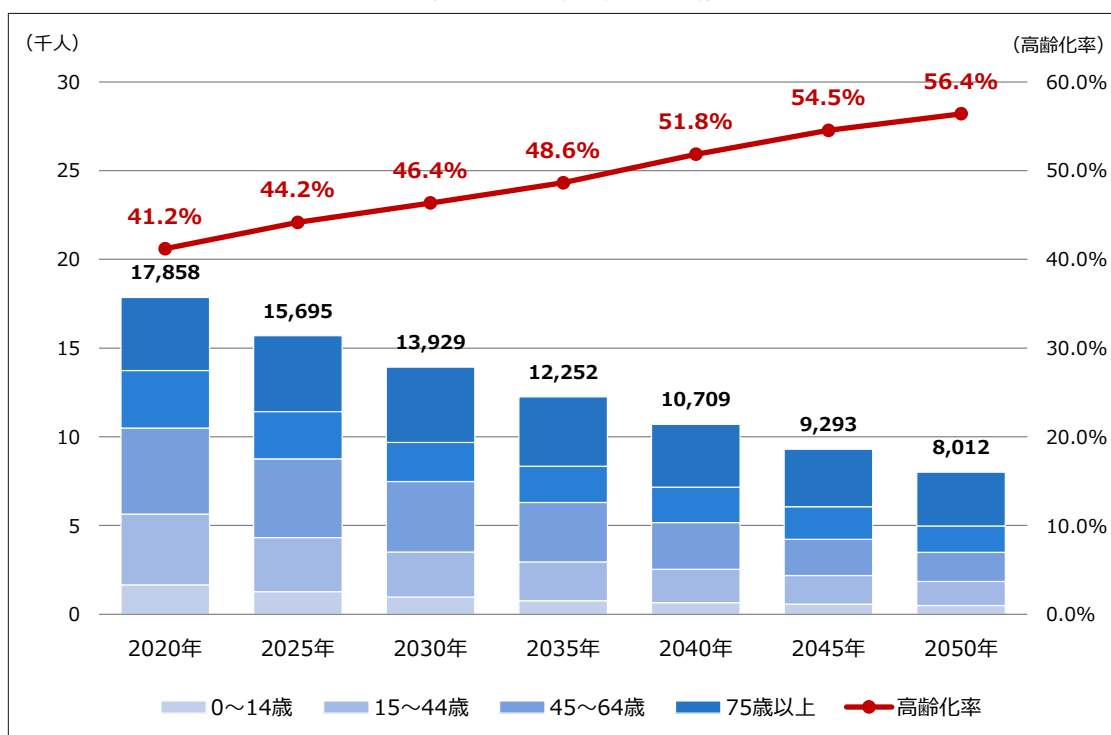
【出典】北海道厚生局

(2) 地域の将来人口

国勢調査をもとに算出された士別市の将来人口は、今後減少傾向であり、令和 2（2020）年の 17,858 人から、令和 32（2050）年には 8,012 人まで、約 51%減少する予測となっています。年齢階級別にみると、65 歳以上の高齢者も含め、全ての年齢階級で人口が減少する予測となっています。

また、若い世代の人口減少が進むことにより、高齢化率（人口全体に占める 65 歳以上人口の割合）が増加します。高齢化率は令和 2（2020）年の 41.2%から、令和 32（2050）年には 56.4%まで増加する予測となっており、人口の半数以上を高齢者が占めることとなります。

図表16 士別市の将来人口推計



【出典】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」

(3) 地域の将来医療需要

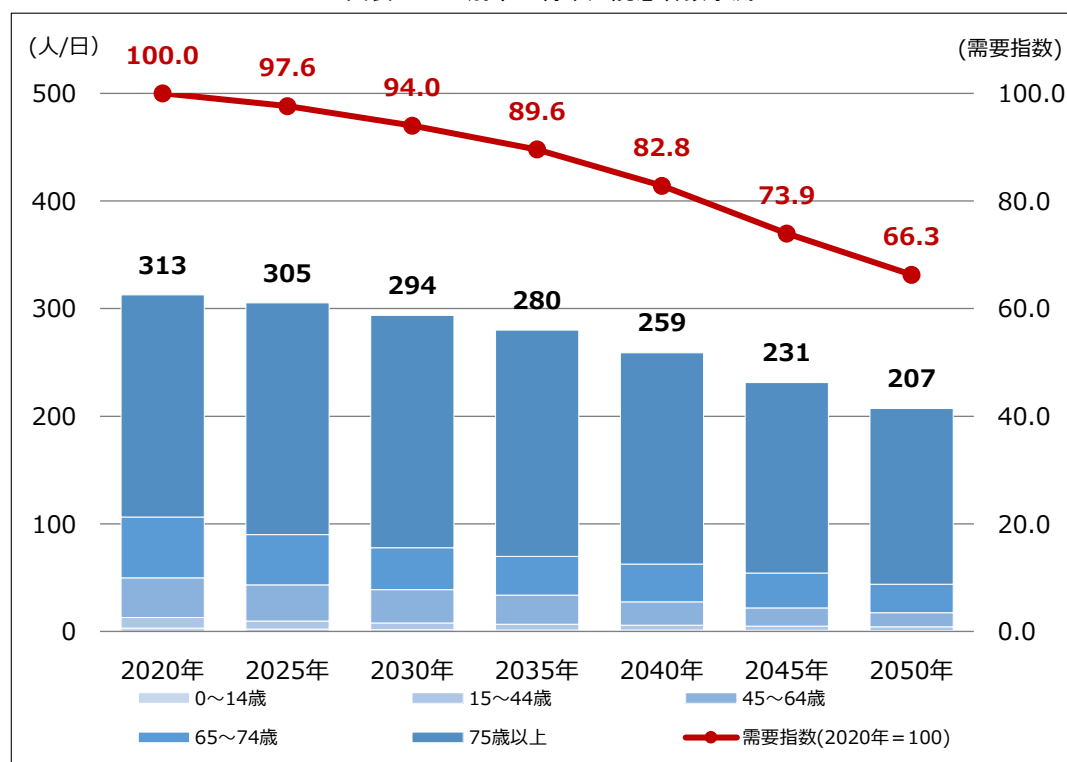
士別市の将来医療需要は、将来人口推計、および令和2年患者調査の北海道受療率（外来・入院）に基づき、以下のとおり推移すると予測されます。

① 入院需要予測

1日当たりの入院患者数はすでにピークアウトしており、今後は減少傾向が続く予測となっています。患者数令和2（2020）年の313人/日から、令和32（2050）年には207人/日まで、約34%減少する予測となっています。

65歳以上の高齢者の割合は、令和2（2020）年の84.1%から、令和32（2050）年には91.5%まで増加する予測となっています。

図表17 士別市の将来入院患者数予測



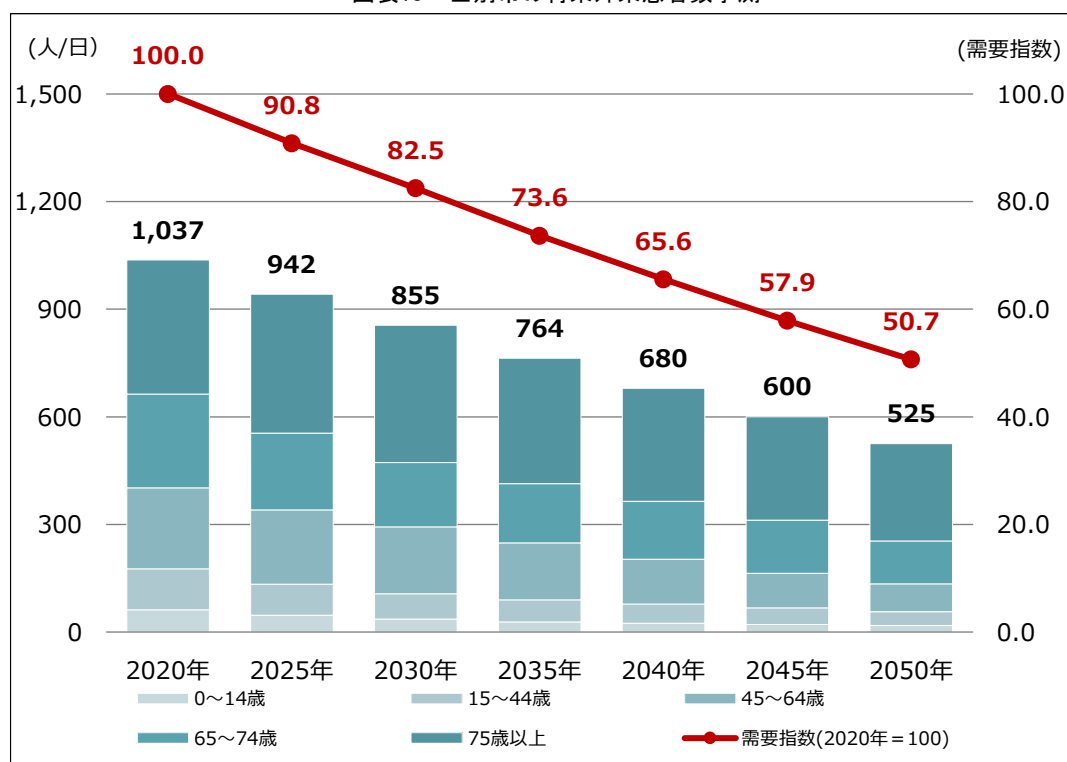
【出典】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」、厚生労働省「患者調査」（令和5年）

② 外来需要予測

1日当たりの入院患者数はすでにピークアウトしており、今後は減少傾向が続く予測となっています。患者数令和2（2020）年の1,037人/日から、令和32（2050）年には525人/日まで、約49%減少する予測となっています。

65歳以上の高齢者の割合は、令和2（2020）年の61.2%から、令和32（2050）年には74.4%まで増加する予測となっています。

図表18 士別市の将来外来患者数予測



【出典】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」、厚生労働省「患者調査」（令和5年）

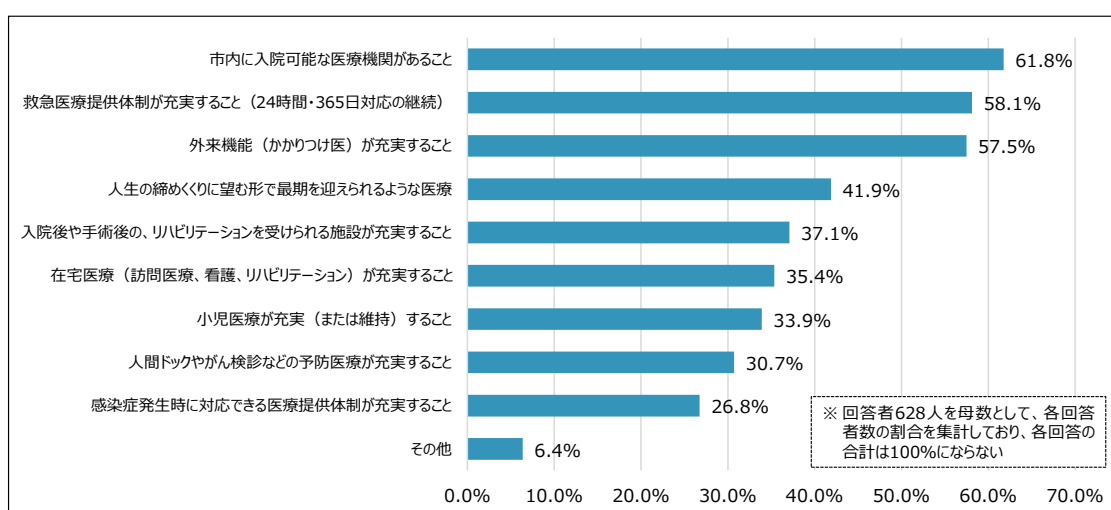
3. 住民アンケートの意見

士別市では、令和 7（2025）年 5 月に、「士別市立病院に関する住民アンケート調査」を実施し、1,500 件のアンケート送付に対し、628 件（回答率 41.9％）の回答を得ました。

このうち、「今後、士別市において特に必要だと思う医療機能について教えてください。（※複数回答可）」という設問に対しては、「市内に入院可能な医療機関があること」、「救急医療提供体制が充実すること（24 時間・365 日対応の継続）」、「外来機能（かかりつけ医）が充実すること」の回答数が特に多くなっています。

図表19 士別市立病院に関する住民アンケート調査 結果の概要

項目	結果の概要
調査期間	令和 7（2025 年）5 月
調査対象	無作為に抽出した、市内在住の 18 歳以上の男女 1,500 名
回答数	628 件（回答率 41.9％）
病院の受診歴	回答者の 94.4％が受診歴あり
士別市立病院を受診する理由	「自宅や勤務先から近いから」が最も回答数が多いほか、「公立病院だから」、「夜間・休日対応があるから」、「ほかにかかる病院がないから」など、病院や地域の特性をふまえた項目も回答数が多い
今後、士別市において特に必要な医療機能	全ての選択肢に一定の支持があり、その中でも特に「市内に入院可能な医療機関があること」や「救急医療提供体制が充実すること」、「外来機能（かかりつけ医）が充実すること」の回答が多い（下図参照）



4. 病院の課題

士別市立病院は士別市内で唯一の病院であり、半径 15 キロメートル圏内に他の病院がないことから、士別市を中心とした医療提供体制の担い手としての役割を果たしています。今後も公立病院として、医療提供体制の確保に向け、取組を進めていく必要があります。

しかしながら、現在の病院建物は昭和 62（1987）年に竣工後、すでに築後 37 年が経過しており、建物・設備の老朽化が進んでいます。

また、士別市では人口減少が進んでおり、入院患者数、外来患者数は近年減少傾向にあります。さらに、将来の患者数も減少傾向が続く予測となっています。人口の減少は患者数の減少につながるだけでなく、医師をはじめとする職員の確保の難しさにもつながります。

さらに、収支状況も赤字が続いており、持続可能な経営の実現に向けた取組が必要な状況にあります。

病院の将来に向けたあり方と目指すべき方向性の検討においては、これらの課題をふまえつつ、地域において士別市立病院に求められる役割・機能について協議を行い、本答申をまとめたところであります。

5. 士別市立病院のあり方検討市民委員会設置要綱

(設置)

第1条 士別市立病院の再整備基本方針策定に際し、市民参加により病院の将来に向けたあり方について検討するため、士別市立病院のあり方検討市民委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 士別市立病院の医療の現状と課題に関する事項
- (2) 士別市立病院のあり方と目指すべき方向性に関する事項
- (3) その他前号に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、公募による市民その他市長が適当と認める者のうちから市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する職務が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要に応じ、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、士別市立病院経営管理部総務課において行う。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附則

（施行期日）

- 1 この要綱は、令和 7 年 3 月 17 日から施行する。

（この要綱の失効）

- 2 この要綱は、令和 8 年 3 月 31 日限り、その効力を失う。

（その他）

- 3 この要綱の施行後最初に行われる会議は、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず市長が招集する。
- 4 前項の会議において、委員長が決まるまでの間、会議の議長は市長が務める。

6. 士別市立病院のあり方検討市民委員会の開催経過

開催経過	議題
第1回 令和7年4月25日	・ 委員長・副委員長の選出 ・ 諮問書の手交 ・ 委員会の目的について ・ 傍聴・議事録の公表等について ・ 市民アンケートの実施について ・ 病院の現状と課題について
第2回 令和7年5月22日	・ 基調講演「公立邑智病院の再整備の取り組み」（講演者：総務省経営強化アドバイザー 日高 武英 氏、公立邑智病院看護部長 日高 美晴 氏） ・ 意見交換
第3回 令和7年7月10日	・ 市民アンケートの結果まとめ ・ 令和5年度に実施した劣化度調査について ・ 士別市立病院の将来のあり方に関する検討
第4回 令和7年8月7日	・ 士別市立病院の将来のあり方に関する検討
第5回 令和7年9月12日	・ 士別市立病院の将来のあり方に関する検討 ・ 答申案の検討
第6回 令和7年10月1日	・ 士別市立病院の将来のあり方に関する検討 ・ 答申案の検討

7. 委員名簿

	委員名	(団体名等)
委員長	鈴木 勉	(有識者)
副委員長	五十嵐 紀子	(有識者)
委員	泉 谷 勇	(運営審議委員会 委員)
委員	倉 持 宏 行	(医療団体 市開業医会)
委員	古 川 芽 生	(福祉団体 社会福祉協議会)
委員	太 田 籌 一	(商工団体 商工会議所)
委員	前 川 弘 美	(福祉・児童団体 民生委員)
委員	嘉 藤 眞 里	(子育て団体 土子連)
委員	保 科 隆 志	(公募)
委員	加 藤 千 恵 美	(公募)